

当園ではこの度、平成 25 年度の幼稚園学校評価として、教職員自己評価及び、学校関係者評価を実施いたしました。教職員自己評価では、教職員一人ひとりが、自らの教育活動や園運営の状況を客観的に振り返ることにより、自身や園全体を見つめ直すいい機会となり、今後続けていくことにより、より一層幼児期の育ちについて責任を持つことができると考えられます。今年度の学校関係者評価及び、教職員自己評価の結果を活かし、来年度以降の更なる教育活動の充実、教職員の資質向上に努めていきたいと考えております。

I. 教育目標

教育目標	「清く・正しく・たくましく」自らの力で行動できる幼児を育成する
教育方針	「自立心・自主性の育成」
教育の特徴	<ol style="list-style-type: none"> 1. 身体を強く育てる。(体育遊び、乾布摩擦を通して) 2. 感情を豊かに、はじめある態度を育てる。(音楽リズム、造形活動を通して) 3. 自ら創意工夫する態度を育てる。(数と言葉の遊び、造形活動を通して) 4. 「6つの心」が自然と身に付くように育てる。(社会・言葉を通して) <ul style="list-style-type: none"> ・「おはようございます」という 明るい心 ・「はい」という 素直な心 ・「すみません」という 反省の心 ・「わたしがします」という 積極的な心 ・「ありがとうございます」という 感謝の心 ・「おかげさまで」という 謙虚な心

II. 今年度の重点目標

評価項目に沿って自己点検、自己評価を実施することによって、教師自らが客観的に自園を見る目を養い、施設の改善、教育内容の改善に主体的に取り組んでいくための姿勢を身に付けることを重点項目とする。また、自園の長所と短所をしっかりと認識し、特色を活かした教育を行っていくこと。園内研修の充実に努める。幼児一人一人が自ら考え行動できるように個々の子の育ちを大切に教育・保育をする。異年齢交流の充実に努める。ひよこ園の低年齢児との結びつきをより一層深める。

III. 評価項目と取り組み状況

評価項目	具体的確認項目	評価	取り組み状況
1 教育方針・目標	園の教育方針や目標、園長の思いなどを共有することができるか。またその為にどのような取り組みがなされているか。	B	週に1～2度の終礼の場で、教職員全員で教育方針や目標を唱和することで頭に入れこむ。行事の打ち合わせ、反省会などでも教育方針や目標に沿ったものになっているかを確認し話し合いをしている。また保護者との話の中でも保育の狙いとして話をしている。
2 指導計画の作成と評価	自分の保育と計画の評価・反省について、次の保育と計画に活かせるように取り組んでいるか。	B	年間カリキュラム、週案等保育計画を事前に職員間で話し合い早めに立てることができている。また、うまくいかなかった点や活動について学年間で反省をしたり、次回の計画の参考としている。
3 指導と関わり	幼児がそれぞれの興味や関心、能力に応じて、全身を使って活動することができる環境を整えているか。	A	室内では各クラスで自由に使って遊べる材料・道具を整え年齢に合わせた提供の仕方を工夫している。またそれぞれの季節や時期に合った活動をカリキュラムに組み込んでバラエティにとんだ活動を提供している。
4 教育環境の構成	異年齢の幼児が自然に交流できるように環境構成ができているか。またその為にどのような取り組みを行っているか。	A	異年齢で構成されたクラスとは別のチームを作り月2回程度遊ぶ場と時間を作っている。その中で触れ合ったりできるゲームやかかわりを持てる活動に取り組み、異年齢児に自然と憧れや思いやりの気持ちを持てるように進めている。それをきっかけとして外遊びなどの自由時間でも自然と交流できるようになってきている。また、普段の生活の中でも年長・年中児が年少児の着替えや用意を自主的に手伝えるように声を掛けている。

平成 25 年度 学校評価
結果公表シート

学校法人廣瀬学園
東よさみ幼稚園

評価項目	取り組み内容	評価	取り組み状況
5	研修・研究への取り組み	B	経験年数や学年・行事に応じて研修内容を選び自分の課題において進んで取り組めるようにしている。研修後内容は報告書に記録し、重要な研修や参考になる資料は、他の職員に配布、報告している。また、公開保育を行い、それぞれの職員の保育技術向上に取り組んでいる。
6	安全管理体制の整備	C	避難訓練を定期的に行い、緊急時に備えたり、シミュレーションを行ったりしている。防犯カメラの増設により不審者の侵入を防ぐことを強化したり、オートロックの開閉もカメラで人物確認を徹底している。しかし門の下に子どもが通れる隙間があったり、子どもが勝手にオートロックのボタンが押せたりと不十分な点もあるので改善が必要である。全職員が救命講習の研修を受けている。またアレルギーや救命救急などの研修に積極的に参加している。
7	衛生管理体制の整備	A	子どもたちに登園時にうがい・手洗いを徹底している。また保護者や来園者に消毒の呼びかけを行っている。教室でも消毒・殺菌をかかさず行い、園児のおう吐物・排泄物に対しての処置の仕方もマニュアルを作成し、職員全員が共通理解できるようにしている。空気清浄機を使用し、ウィルスや細菌による病気が流行しないようにしている。
8	地域の人々、自然との関わり	B	小学校との交流会、敬老会への参加、デイケア老人施設への訪問など積極的に参加し、地域の人々と関わりを持っている。また、季節の変わり目などに公園への園外保育など自然の移り変わりを感じる機会をカリキュラムに取り入れている。

【評価の基準】

A	十分に達成されている
B	達成されている
C	取り組みはされているが、十分ではない
D	取り組みが不十分である

IV. 今後取り組むべき課題

1	指導計画の作成と評価	指導計画の反省は、個々でもしっかりと取り組めており、また学年内での共有はできている。今後は学年を越えた反省の共有に積極的に取り組むと共に、反省内容や課題などをしっかりと記録に残し、年度末に次の学年で担当することになる先生に、情報の引き継ぎができるようにしていきたいと考えている。また発達障害児に対する配慮ができる指導計画の立案。
2	教育環境の構成	異年齢保育は、東よさみ幼稚園の大きな特徴であり、保護者の方からも多数の喜びの声をいただいている。このような本園の「強み・特徴」の部分である異年齢保育をさらに良いものとする為に様々な取り組みを行っていききたいと考えている。具体的にはクッキングや園外保育など、従来よりも活動の幅を広げることと、意図的に交流させるのではなく、皆が自発的な交流を持てるような指導をしていききたいと考えている。また、ひよこ園の0、1、2歳児の交流を意図的に実施するようにしていきたいと考えている。
3	衛生管理体制の整備	安心して子どもを通わせることができるよう、防災対策に注力した。この取り組みに関しては継続的に続けていく。アレルギー対策として給食への配慮の充実を行う。具体的には危機管理マニュアルの整備と実施を行いたいと考えている。
4	地域との連携	現在も地域の方との交流は積極的に行っているが、これまで以上に地域に根付いた園として今後も積極的に地域との連携・交流を深めていきたいと考えている。具体的には地域行事の情報などを入手して園として参加したり、保護者の方に情報提供できるように区政だよりなどもチェックしたいと考えている。また従来の交流は私たちが園外に出て行くことが多かったが、今後は地域の方に来園していただく機会を増やしたいと考えているため「夕涼み会、造形展」の宣伝・案内にも力を入れたいと考えている。情報発信を積極的に行い、地域の幼児期の育ちの発信園となるよう考えている。

V. 学校関係者の評価

上記の通り、適性に行われていると判断できる。日頃から先生方の一生懸命な姿や、保育に対する姿勢は素晴らしいものだと感じており、この学校評価での反省を活かして、来年度以降さらに良い東よさみ幼稚園、東よさみひよこ園となっていることを期待します。国の子ども子育ての新制度にどのように取り組むか方向性をしっかり見極め、誤りのないようにして欲しい。その為に教職員との連携を密にするように。
--